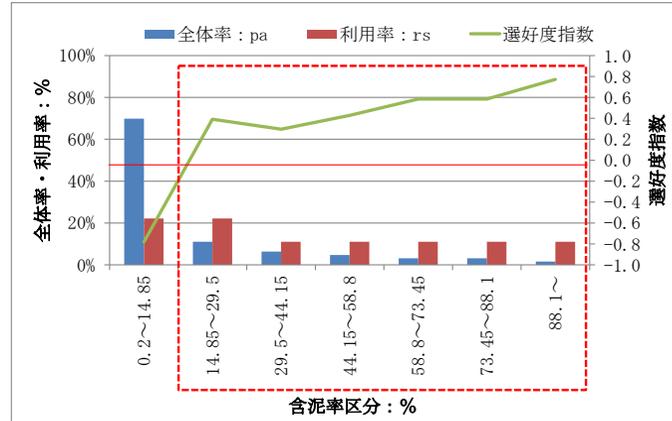
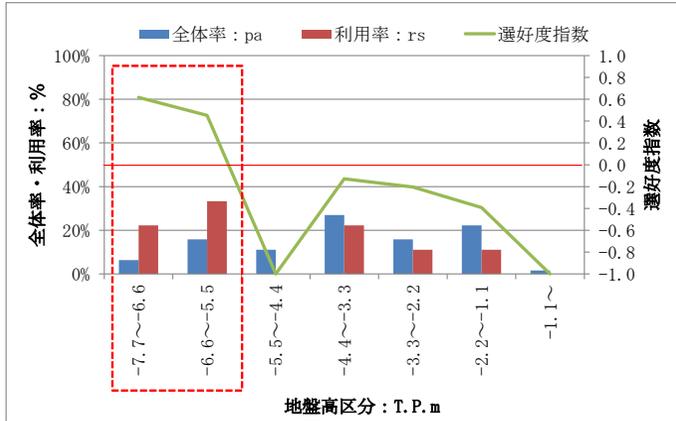


■底生動物のハビタット区分の検討⑬ ～ハビタット区分2と3の指標種のモデル化方法～

■クビナガスガメの選好度モデル

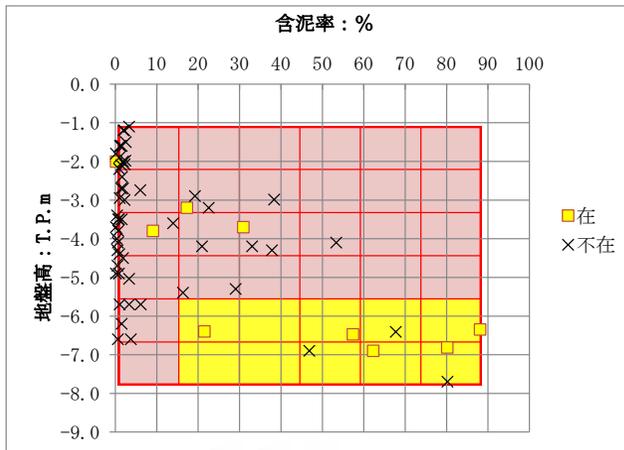
- ・地盤高：T.P.-7.7m~-5.5m
- ・含泥率：14.85%~88.10%
- ・全データ(n=63)に対してモデルを適用すると8箇所が好適性と判定 ※正解率88.9%



判定	不在	在	合計
選好性無し	51	4	55
選好性有り	3	5	8
合計	54	9	63

感度	55.6%
特異度	94.4%
正解率	88.9%

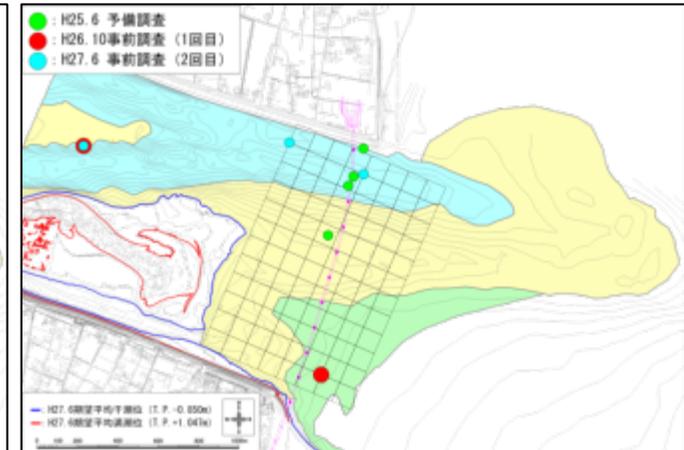
■選好度モデル



■選好度結果



■実際の出現場所



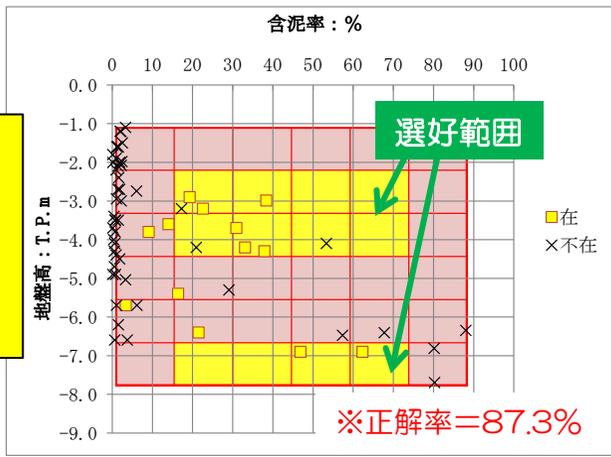
■底生動物のハビタット区分の検討⑭ ～ハビタット区分2の指標種のモデル化～



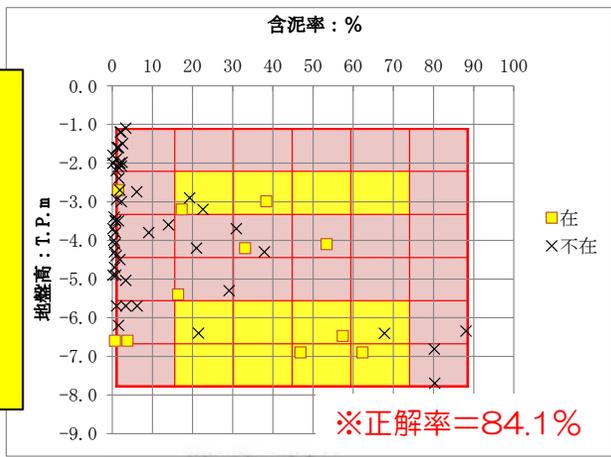
ハビタット区分2及び区分3の指標種のモデル化は、粒度組成の面的なデータが不明であり、調査地点のデータのみに制限されるため、これまでの調査結果のデータ(地盤高・粒度組成)から統計処理が必要となる。その方法として**選好度モデル**を採用した。

チヨノハナガイは区分2で6地点確認されたことに対し5地点が生息可能場と評価し、**シノブハネエラスピオ**は3地点確認されたことに対し3地点が生息可能場と評価した。また、前述の通り、**区分2と同質のハビタットが区分3に含まれる**ことがモデルからも示された。このことから、**区分2のバックアップ**として、**区分3がより広範囲で機能している**と考えられる。

■選好度モデル



チヨノハナガイ

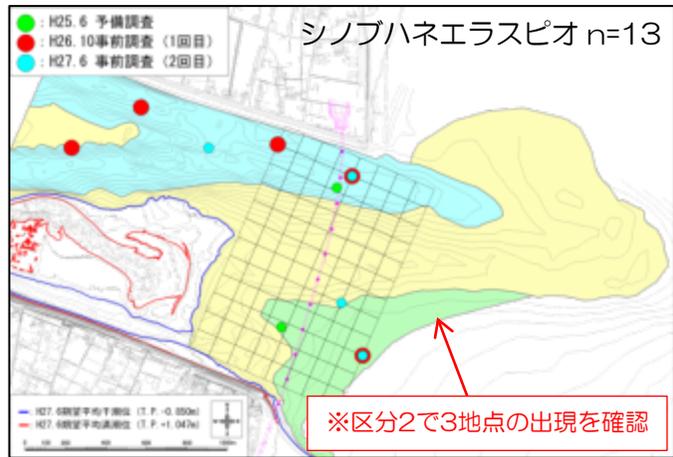
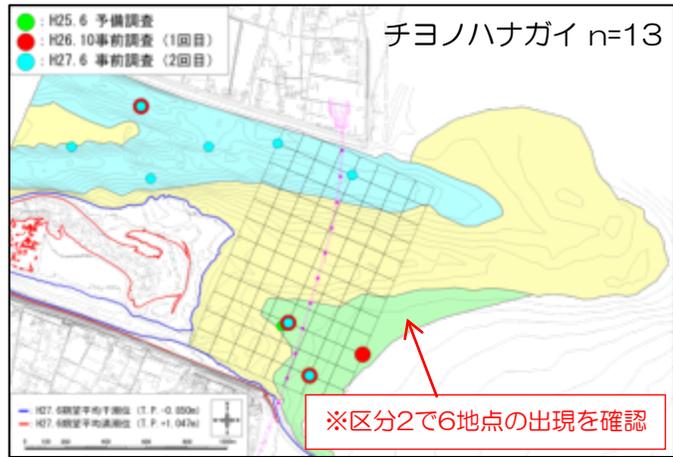


シノブハネエラスピオ

■選好度結果



■実際の出現場所



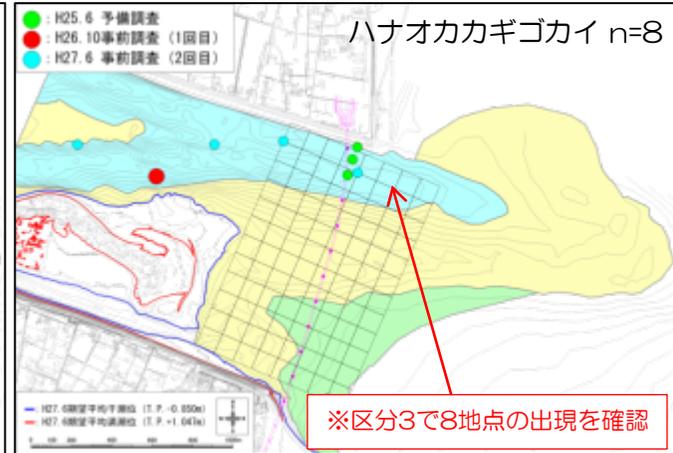
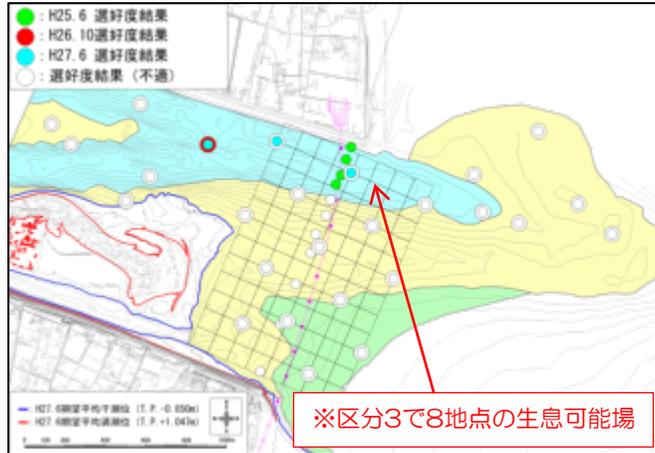
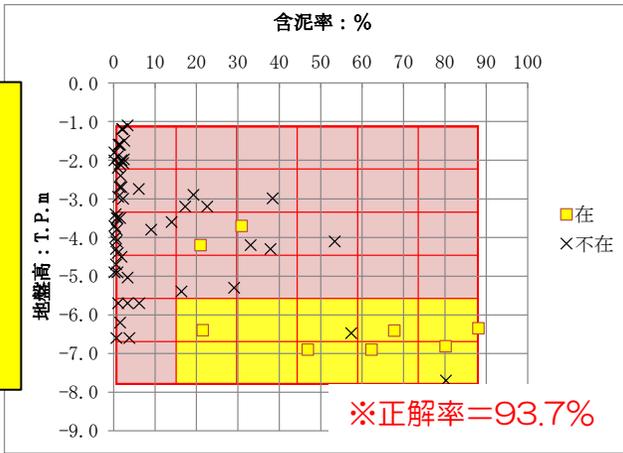
チヨノハナガイ : 地盤高：T.P. -7.7m~-6.6m & T.P. -4.4m~-2.2m, 含泥率：14.85%~73.45%, 感度：61.5%, 特異度：94.0%, 正解率：87.3%
シノブハネエラスピオ : 地盤高：T.P. -7.7m~-5.5m & T.P. -3.3m~-2.2m, 含泥率：14.85%~73.45%, 感度：45.5%, 特異度：92.3%, 正解率：84.1%

■底生動物のハビタット区分の検討⑮ ～ハビタット区分3の指標種のモデル化～

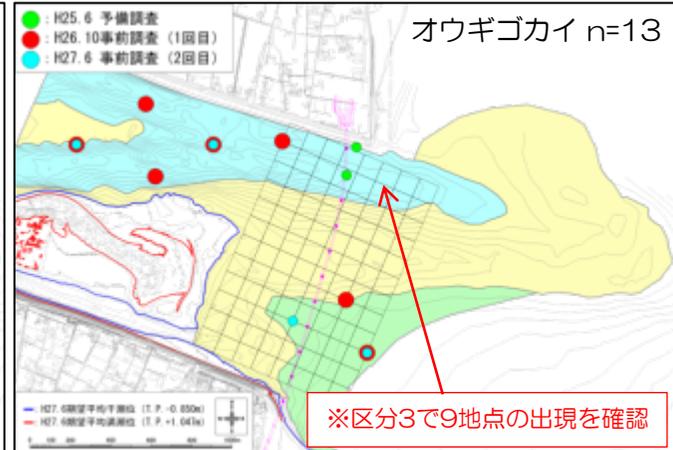
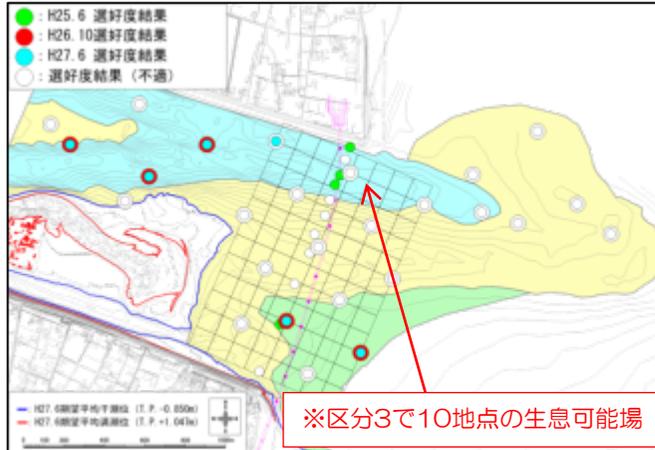
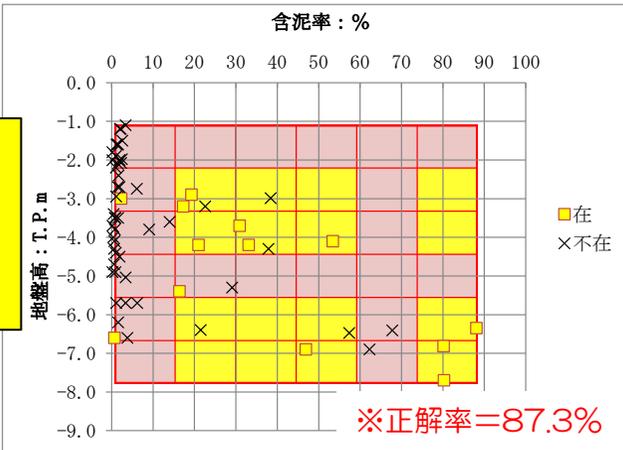


ハビタット区分3についても区分2と同様にモデル化した。
ハナオカカギゴカイは、区分3で8地点確認されたことに対し8地点で生息が可能と評価され、オウギゴカイは9地点確認されたことに対し10地点で生息が可能と評価された。

ハナオカカギゴカイ



オウギゴカイ



ハナオカカギゴカイ：地盤高：T.P.-7.7m～-5.5m、含泥率：14.85%～88.10%、感度：75.0%、特異度：96.4%、正解率：93.7%
 オウギゴカイ：地盤高：T.P.-7.7m～-5.5m & T.P.-4.4m～-2.2m、含泥率：14.85%～58.80% & 73.45%～88.10%
 感度：76.9%、特異度：90.0%、正解率：87.3%

